子ども、高齢者、障がい者にやさしいまちへ

2期目に挑戦

憲法9条守り抜きます！

みなさんのご支援で市議会に送り出していただき、まもなく4年です。「社会的に弱い立場の人たちの声を徹底して市政に届けよう」――この初心を忘れず、福祉や介護、子育て支援の充実に取り組みました。最初は実現が難しいと思ったことも、市民の願いを繰り返し訴え続けることで実現させることができました。これからも困っている人や市民の立場にたって全力をあげます。ぜひ再び市政で働かせてください。

西東京市議会議員

大竹あつ子

大竹あつ子　検索　BLOG

おおたけ敦子

日本共産党

西東京民報　2018年10･11月号外　日本共産党北多摩東部地区委員会の見解を紹介します。
発行人 ／ 朝倉文男 西東京市芝久保町 1-7-13-412

大竹あつ子 新人議員奮闘記❶

小・中学校入学のための就学援助 なぜ入学後の7月に支給!?

あきらめず、なんども訴え ついに改善される

収入の少ない子育て世帯が利用する就学援助は、大切な制度です。しかし、ランドセルや制服代などにあてる入学準備金が支給されるのは、入学後の7月過ぎ。これでは間に合いません。

困っている家庭の声を届ける

そのため借金してやりくりしている世帯も…。大竹さんは「入学準備金なのに理不尽だ」と思い、入学前に出すよう市議会で要望しました。しかし、市の答弁は「手続きが煩雑になる」など、実に冷たいものでした。

12回の質問で市の態度に変化

「理不尽なことは絶対に見過ごせない」が信条の大竹さんは、利用世帯の生活の大変さなどを訴え、12回に渡り追及。ついに市も「研究する」と変わり、そして、来年度から実現することになったのです。

「保育園増やして」の願い届け、増設が実現

市議になる前から取り組んだ待機児解決も要望。西東京市では4年間で6園が増設されました。さらに、増設が必要です。

保育士の子が待機児!?、兄弟別々の園に入園!?、改善へ

「保育士さんの子が待機児になってしまい、休職せざるを得なくなった」という本末転倒な問題の相談や、「兄弟が別々の保育園で送迎が大変」などの相談を受け、改善に取り組みました。来年から入所の優先項目に入れられることになりました。

子どもの安心・安全のため いつも全力　頼りになる人

――住吉町　平野希さん

大竹さんは子育て仲間。常に子どもの安心・安全を気にかけ、心配事があれば「市政にできることはないか」と知恵をしぼってくれます。議会でたくさん子育て世代の声を取り上げてくれるのが嬉しい。頼りになる人です。

「子ども食堂」にも取り組む大竹さん

――向台町　田辺由美子さん

子ども食堂でスタッフとして一緒に活動しています。忙しいスケジュールをやりくりして、こども食堂の活動に参加されているのが大竹さんです。

「子ども条例」実現へ

貧困、体罰や虐待から子ども守る社会に

大竹あつ子は全力

日本共産党市議団が以前から要求していた子ども条例――子どもの貧困や虐待、いじめの防止、意見表明権などが明記された条例が、市民参加で進められ実現することになりました。

「子どもに関わることは子どもに聞く」市政に

今、泉小跡地での公園づくりについて、子どもの意見を十分聞かないで進められたり、他の公園でも「ボール遊びができる公園を」などの子どもの願いや意見が反映できないものになっています。大竹さんはこの条例を生かして、子どもの権利が守られ、子どもの声をよく聞く西東京を作りたいと、決意を新たにしています。

文理台公園

卒業後の居場所や働き場 障がい者・家族の願いに応え

障がい者福祉施設が泉小跡地に実現へ

障がい者福祉の充実を、議会でなんども訴えた大竹さん。障がい者の特別支援学校卒業後の働き場、就労訓練の場や居場所、グループホームなどの「親亡き後」も地域で暮らしていけるようにすることは切実な課題です。そのために障がい者施設の増設を市民の方とともに訴えてきました。それが2020年度に泉小跡地に実現する方向になりました。

泉小跡地

障がい者・家族の集まりに何度も参加。願いを胸に刻んで

障がい者スポーツのつどいで

大竹さんは市内の障がい者や家族の集いなどには可能な限り参加し、実態や要望を学んできました。

特別支援教育に全力

コミュニケーション等に課題のある生徒が通う通級指導学級。中学では市内で1ヶ所でしたが、もう1ヶ所増やしました。

作業所の増設や就労相談体制の拡充を求めて

今、水増し問題が大問題になっている障がい者の雇用。大竹さんは、市の就労支援の拡充を求め繰り返し質問しました。

手話の普及、理解求めて「言語手話条例」を提案

大竹さんは、市の初級手話講座に一年通いました。そこで手話の奥深さに感銘を受け、手話の啓発や、子どもや市民に聴覚障害への理解が進むように市議会で「手話言語条例」を提案しました。

修了証

大竹 敦子 殿

あなたは、手話講習会初級の全課程を修了しました。
今後のご活躍を期待してこれを証します。

▲手話の初級講座の修了証

大竹さんに相談して本当によかった

——北町　H. Aさん

双極性障害やリウマチなどで働くことができず、苦しんできました。大竹さんは何度も相談に乗ってくださり、障害年金の手続きも手伝ってもらいました。親身になって動いてくれるのが大竹さんです。

障がい者と家族の思いがよくわかる人

——北町　広瀬眞知さん

障がい者のイベントには必ず参加をしてくれ、私たちの声を議会に届けてくれる大竹さん。西東京市にはまだまだグループホームも作業所も足りません。西東京市が市民を本当に大切にする街にしたい。そのためにも頑張ってほしい。

大竹あつ子のお約束

現市政がねらう有料化・値上げ計画に反対します

自民、公明が与党の現市政が作った「西東京市行財政改革大綱アクションプラン」(2018年3月)には、現在無料の市民集会所、地区会館の使用料や5種類のがん検診費用、田無庁舎や図書館の駐輪代などが「見直し」の対象となっています。また保育園や学童クラブの育成料、はなバスの運賃も見直しの対象。有料化や値上げは許しません。

みんなが暮らしやすい街に

- ○認可保育園増設、子どもの貧困対策、居場所づくりを
- ○特養ホーム増設、介護や医療の保険料軽減を
- ○障がい者の就労の場やグループホーム増設を
- ○ボール遊びができる公園、緑地の保全を
- ○集中豪雨に備えた防災対策、はなバスの拡充を
- ○同性パートナーシップ証明制定、LGBTの方への差別なくす
- ○安倍政権が狙う憲法改悪に反対します

祖母と父を介護し看取った経験から

高すぎる保険料の軽減 特養ホーム増設に全力

大竹さんは、この4年の間に、介護していたお父さんと、104歳のお祖母さんを、相次いで看取りました。お父さんは、要介護5なのに、入所待ちで特養に入れないまま亡くなりました。

介護を受ける本人とその家族の大変さ、そして介護従事者のご苦労も身にしみて感じてきた大竹さん。介護保険や国民健康保険料などの負担軽減、介護施設の整備、サービスの拡充、介護従事者の待遇改善を市議会で何度も取り上げてきました。

高齢者の貴重なスポーツの場 保谷5丁目市有地の存続を求め

保谷5丁目の市有地

高齢者の健康を守るため、適切な運動の場所や機会を整備することも大切です。高齢者がグラウンドゴルフや軽スポーツの会場として使用している、保谷5丁目の市有地を、市は売却しようとしています。住民の皆さんと一緒に、「今後も使えるよう」署名運動にも取り組み、議会でも存続を求めて質問しました。

地元の大切な場所 大竹さんに期待します

――保谷町　大島国広さん

この場所はグラウンドゴルフで利用しています。私たちの声を聞いて、高齢者の仲間作りの場、災害時の避難場所ともなるこの場所を無くしてはならないと全力で動いてくれる大竹さん。議会になくてはならない人です。

LGBT※など性的マイノリティーの人権守る活動に

「多様性ある街に」大竹さんの夢です。大竹さんはLGBT自治体議員連盟の一員として、性的マイノリティの人をはじめ、あらゆる人への差別をなくし権利を守るために活動。市議会でも質問しました。

レインボーパレードで
池内さおり前衆院議員とともに

※LGBTとは、レズビアン（L）、ゲイ（G）、バイセクシュアル（B）、トランスジェンダー（T）の頭文字をとった単語で、性的マイノリティーの総称のひとつです。

市が広報誌にも掲載 啓発、理解広げる企画も開催するまでに

市の情報誌「パリテ」19号

そうした質問が生きて、市の男女平等情報誌「パリテ」にLGBTへの理解を求める記事が掲載されたり、当事者を呼んだ企画や講演を行うまでになりました。不必要な性別記載の様式も減りました。

結婚式にも招待されました

大竹さんの意欲的な活動に関係者から期待も寄せられ、上の写真のように同性のパートナーの「結婚式」にも招待されました。

多様性のある西東京に欠かせない大竹さん

――西原町　星公一郎さん

西東京市で同性パートナーと暮らし始めて生活に自信と安心を持つことが出来ました…僕がこの町でカミングアウトする前から差別や偏見のない西東京市になるよう、LGBTについて議会で訴えてくれている大竹さんに期待します。

普通の主婦から市議会議員に
大竹あつ子のあゆみ

●一卵性双生児の次女として生まれました（写真中央）。両親と兄、祖母（同右）の6人家族。横浜に住んでいました。3歳から小児喘息にかかり、夜中に発作を起こしては家族におぶわれて、病院に運ばれることも。

左は双子の姉

●小4の時、友だちのお母さんから勧められて読んだ「はだしのゲン」。夢でうなされるくらい衝撃的でした。戦争や原爆の怖ろしさ、平和の大切さを考えるように。

●和光大学に入学。探検部に所属。卒業後、出版社、映像制作会社を経て、所沢市の学童保育指導員に。「子ども大好き」です。

「困っている人の話をよく聞く」の初心守り

●退職後、結婚し西東京市（旧保谷市）に転居。子育ての中、「くじ」でPTAの役員になりました。

●「せっかく役員をやるなら子どものために」と思い、危険な通学路の改善に取り組みました。東町交差点などの実施調査も行い、市に交通擁護員の配置を要望しました。しかし市は予算がないとの回答。納得の行かない大竹さんは、市議会に陳情を出し、保護者のみなさんからたくさん署名もしてもらい、ついに市議会も動いて交通擁護員が配置されました。

●そうした行動が注目されたのか、日本共産党の安斎市議（当時）の後継者として「ぜひ市議会議員に」と要請された大竹さん。「口下手な自分には絶対に無理」と思いましたが、「市議会議員に必要なのは、困っている人の話をよく聞いて、市政にその声を届けること」と訴えられ心が動き、立候補し当選。初心忘れず活動中です。

ペットは家族
不幸な犬、猫を減らしたい

愛猫のテンちゃんと

▲地域の団体と一緒に飼い主のいない猫の去勢手術推進などに取り組んでいます。

殺処分ゼロの先進区、千代田区を視察し職員の方から話も聞きました。→

大竹あつ子プロフィール

●1969年、目黒区生まれ。和光大学人文学部人間関係学科卒業。所沢市にて学童保育指導員として勤務。●東小学校保護者の会副会長、会長を歴任。2014年西東京市議に初当選。現在、1期目、文教厚生委員会所属、LGBT自治体議員連盟所属。●家族：夫、高校2年の息子と猫2匹。趣味：映画鑑賞と読書。好きな映画は「A.I」「レ・ミゼラブル」。愛読書は森絵都の「カラフル」

大竹あつ子の活動地域：北町、栄町、下保谷、東町、保谷町、泉町、住吉町4～6丁目

常に市民の視点で軸がブレない大竹さん

――泉町　深川恵美さん

ママ友として知り合い、いつも親身に相談にのってくれた大竹さん。議員になっても、気軽に相談できるし、子供の為・地域の為と考え方の軸は前と全く変わりません。常に私達側の視点を忘れないで市政を行なってくれるという事!これほど安心な事はありません!